



## ブレイカーズ「パラ陸上」

第1時

作成: 藤田 武士 (茨城県立協和特別支援学校)

### 1 本時のねらい

パラ陸上について知る

### 2 本時の展開例

## 指導内容

### 導入

#### 1 パラ陸上の仕組みについて知る

- NHK東京2020 パラリンピック  
「ほぼ2分でわかるパラ陸上」を視聴する(右:QRコード有)



### 展開

#### 2 クラス分けについて考えてみる

- クラス分けの表記方法についておさらいしてみる。  
例) T53 … T = トラック競技 F = フィールド競技  
T53 … 障がいの種類  
10 番台: 視覚 20 番台: 知的 30 番台: まひや筋緊張・脳原性まひなど  
40 番台: 低身長, 脚長差, 切断などで立位  
50 番台: 脚長差や切断などで車いすなどを使用 60 番台: 切断等で義足  
T53 … 障がいの程度 0~9 基本的に番号が小さいほど障がいが重くなる

#### 3 なぜクラス分けが必要なのか

- なぜクラス分けが必要なのかを考えてみる(小グループで行う)
  - ・クラス分けがなされていなかったらどうなる?
  - ・健常者の陸上競技でもクラス分けはあるのか?

※必要に応じて言葉かけを柔軟に対応し、誘導ではなく、気づきを大切にしてください。

### 終末

#### 4 共有する

- 考えた内容についてグループ間で共有する。  
※共有の仕方は、グループ対グループで、お互いが簡単にプレゼンテーションをする形で、これを数回繰り返すなど、その方法は学級の実態やこれまでの取り組みに応じて柔軟に対応することが望ましい。
- 最後に、課題について話をする。  
学校や家庭で、NHK for school「ブレイカーズ」の5話から8話を、次の授業までに視聴してくるよう伝える。次回に、各話の「見出し」を考える事を伝える。  
※各々の学校や家庭の実情に応じて、学校でPC やタブレット端末をいつでも使えるようにするなど、全員が視聴しておける環境を可能な限り整える。

- ★ 参考資料 一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟ウェブサイト  
一般社団法人 日本パラ陸上競技連盟「パラ陸上競技公式ガイド」
- ★ 映像資料 NHK東京2020 パラリンピックウェブサイト



## ブレイカーズ「パラ陸上」

第2時 ①

作成: 藤田 武士 (茨城県立協和特別支援学校)

### 1 本時のねらい

5～8話を視聴し、各話の「見出し(キャッチコピー)」を考える

### 2 本時の展開例

#### 指導内容

#### 導入

#### 1 ブレイカーズについて振り返る

- 5話から8話までを簡単に振り返る。  
※視聴してきた児童に簡単にあらすじを説明(解説)をしてもらってもよい。

#### 展開

#### 2 各話の「見出し(キャッチコピー)」について考える

- 「可能性」というキーワードを絡めた、各話の「見出し(キャッチコピー)」を考える。  
グループワークで取り組み、話し合いをする中で、お互いの意見を聴き、よりマッチした「見出し(キャッチコピー)」を考え出す。
- タブレット端末などを用意しておき、「見出し(キャッチコピー)」に合うシーンのスクリーンショットを撮影し、そのスクリーンショットと「見出し(キャッチコピー)」を一緒にして他のグループと共有できるようにする。

##### 見出し(キャッチコピー)例

第5話 / 別の可能性の扉 失う自信と新たな可能性

第6話 / 出会う可能性 可能性の明と暗

第7話 / 可能性に立ちはだかる壁 見えた可能性の光 奇跡の可能性

第8話 / 可能性を取り戻した自信

#### 終末

#### 3 共有する

- グループで考えたテーマを、その理由を含めて共有する。  
共有する際、各グループが「テーマ」とともに「その理由」について発表する。



このワークシートが、次の時間の登場人物の心情を読み取る際の参考になると思われる。



## 1 本時のねらい

登場人物の心情を読み取ってみよう

## 2 本時の題材の例

## 登場人物の心情を読み取り、自分事として考えてみる

ここでは、各話において「こういった場面を取り上げるとよいのでは?」という例を提示します。  
児童の実態、第2時での取り組みなどから扱う内容を精選して授業を展開してみてください。

## 【例】

## 第5話 憧れの兄

事故で片足を失いハンドボールが続けられない・・・運動しかとりえがないのに  
練「ひとつの可能性を失うということは、別の可能性が生まれるということである」

別の可能性が生まれるとは?

「君は世界レベルの身体能力を秘めている」

100m高校生記録を持つ義足のランナーの映像を見る・・・勝 ▶ 熱気・可能性  
義足を付ければ走ることも・飛ぶこともできる・・・選ぶのは自分自身

可能性の扉を開けるのは誰? 練・勝・愛・タマ?

## 第6話 車いすバスケットに出会った海

義足との出会い ▶ 歩くのですら難しい ▶ 勝の気持ちは?

第一の可能性 ▶ 100m走 ▶ 記録を見た勝の気持ちは?

「走ることも・跳ぶこともできる」・・・跳べばいいんだろう

出会った第二の可能性 ▶ 走り高跳び ▶ 跳んだ勝・・・練の驚き ▶ なぜ?

## 第7話 可能性に立ちはだかる壁

大会で記録が出ない ▶ なぜ記録が出ない? ...悩む勝と練

勝も練も努力を積み重ねる 勝・・・ 練・・・ 各々の努力とは?

可能性の扉を開くためには・・・?

## 第8話 可能性を取り戻した自信

練「スターのおまえなら余裕だろう」 ▶ なぜこの言葉を言い残して去って行った?

ハンドボールの時のリズム・・・「おれをみる」 ▶ なぜこの言葉?

▶ 最後のシーンの勝の言葉 「 」

## まとめ 鈴木選手の言葉についても考えてみる

▶ 「1cmの高さをどう生み出すかが楽しい」 ▶ 番組のどの部分に現れていたか

※「自分自身だったら」という視点を取り入れて学習活動を進めることで、練や勝の立場を、自分自身に置き換えて  
考えることを仕始めるのではないかと考える。



実際に、パラ陸上の体験に取り組んでみる。  
義足を使っの体験は難しいので、視覚障がい者と  
切断・機能障がい者(座位)の競技2パターンの体験ができればと考える。

ねらいは、体験ということもありますが、障がいによる困難をどうすれば克服できるか。  
そのために、周りの人がどのようにサポートすればいいか、また、方法をどのように改善すれば  
取り組みやすくなるかということに着目できればと思います。

## 体験① 視覚障がい (T/F 11-14)

### 1 本時のねらい

周りの人がどのようにサポートすればよいかを考える

### 2 本時の展開

- 2人一組でペアになる。1人が選手役でアイマスクを付ける。もう1人はガイドランナー役。
- 選手とガイドランナーが互いにテザー(伴走ロープ)を握る。
- はじめはゆっくり歩き始め、進む方向や路面の凸凹、段差などを口頭で指示、誘導します。  
※少し間違えるとケガをしますので、ふざけさせない。いきなり走らせない。  
場合によっては、いくつかのグループに分けて、少人数で行うことも考える。
- 選手役とガイドランナー役を交代しながら体験する。

体験する中で、言葉がけが重要になってくるわけだが、選手にとってガイドランナーの言葉が伝わったか？  
伝わらなかったとしたらどうすればよかったか？ 選手としては同様に伝えて欲しかったか？ などを  
お互いに意見を出し合いながら、よりスムーズに歩ける方法を考えさせるとよい。  
それが、日常生活においても、相手の立場を考え、相手の気持ちを気遣った立ち居振る舞いに繋がると思う。

- 取り組んでいる様子をタブレット端末などで撮影し、振り返りに活用してもよい。

### 3 取り組みの共有

- 各グループでの取り組みを、全体で共有する。

取り組みの中で意識したことや工夫したことなどを共有することで、  
自分たちが気づけなかった部分を知ることができ、次に生かすことができるのではないかとと思う。



実際に、パラ陸上の体験に取り組んでみる。  
義足を使っただけの体験は難しいので、視覚障がい者と  
切断・機能障がい者(座位)の競技2パターンの体験ができればと考える。

ねらいは、体験ということもありますが、障がいによる困難をどうすれば克服できるか。  
そのために、周りの人がどのようにサポートすればいいか、また、方法をどのように改善すれば  
取り組みやすくなるかということに着目できればと思います。

## 体験② 切断・機能障がい (F 51-58)

### 1 本時のねらい

方法をどのように工夫すれば記録が伸びるかを考える

### 2 本時の展開

- 2人一組でペアになる。1人は椅子に座った状態で、もう1人はサポート役。
- 椅子に座った状態で、ソフトボールかジャベリックスローなど、投擲種目に挑戦する。  
2人一組で取り組んでいるので、交代しながらお互いが体験できるようにする。  
※椅子に座った状態で競技をするので、後方への転倒に注意する。場合によっては、ヘルメットなどを着用することで、  
もしもの時の頭部保護になるかと思う。  
※投げた距離の記録を取ったり、タブレット端末で投げている様子を撮ったりすることで、改善策の材料とすることができる

どうすれば体が安定するか、腕がよく触れるか、体重移動ができるかなど、  
記録を伸ばすための改善策を話し合い、トライアンドエラーを積み重ねていく。  
こうした活動を通じて、日常生活で困難な場面に出くわしたとき、自ら考えたり、仲間と相談したりしながら、  
解決策を見だし、困難を乗り越えていこうとする態度や気持ちを養うことができるのではないかと考える。  
そこまでいなくても、あきらめない気持ちや挑戦する気持ちを培うことができるのではないかと考える。

### 3 取り組みの共有

- 各グループでの取り組みを、全体で共有する。

取り組みの中で意識したことや工夫したことなどを共有することで、  
自分たちが気づかなかった部分を知ることができ、次に生かすことができるのではないかと考える。

( 地域の状況によっては、身近に選手がいれば、実際に来校していただき、目の前で競技の様子を  
見せてもらったり、義足や競技用車いす(レーサー)を見せてもらったりすることで、  
パラ陸上のみならず、パラスポーツ全般に興味関心をもつことにつながるのではないかと考える。 )